

踏み跡 < My mountains >

奥多摩	小河内峠越え	No.019
-----	--------	--------

恩田と二人で丹波川の小常木谷から岩岳尾根に取り付き、前飛龍に登るつもりだったが……

昭和38年6月15日

夕方のバスで丹波に入り、小常木谷出合いの余慶橋(よけいばし)でビバーク。ポンチョを敷いて寝袋に入り、ツェルトをかぶる。

昭和38年6月16日

起床5時、天気は曇り。夜中に雨が降り、恩田は左半身、私は右半身寝袋をぬらしてしまった。

朝食をとり、6時45分出発。

7時、小常木谷と火打石谷の合流点に到着。テントサイトとしては断然良いと思われる平坦地がある。

ここから小常木谷に入り、しばらくして右岸に取り付き岩岳尾根に入るはずだが取り付き点が判然としない。一時間ほど攻撃を試みるも見通し暗く、また恩田が胃の調子が良くないというので、8時05分アタックは取りやめ。折り返し点付近は高さ10mほどの幅広い滝が落ちているゴルジュで、この沢の険悪さがうかがえる。

アタックは取りやめたがこのまま帰ってもつまらないということになり、バスで奥多摩湖まで下り小河内峠越えを試みるようになった。

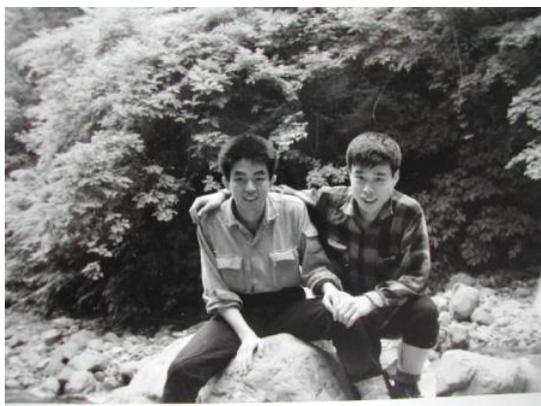
丹波発12時05分のバスに乗り、小河内ダムで下車。食事と休憩の後出発。

ダムを渡り、奥多摩湖の南岸を水辺に沿って歩くと、今までに見た北岸からの奥多摩湖とは違う景色で新鮮な感じがした。湖を見下ろすように立つ鷹ノ巣山と六ツ石山の大きさがあらためてよくわかる。

小一時間歩き、小河内峠への分岐に13時55分着。ここから大平尾根に取り付いて小河内峠(1050m)に14時55分に到着。浅間尾根へ行った時以来二年ぶりの小河内峠。

北秋川の小岩部落へ下り着いたのは17時半頃だったか、バスで五日市へ出て帰った。

いささか運動不足の山行ではあったが、湖畔でかわいらしいリスの走りぬける姿や、鶉の親子を見たり、まずまずのんびりした中にも味のある山行だった。



←小常木谷にて
以上

(修正・更新:2023年9月)